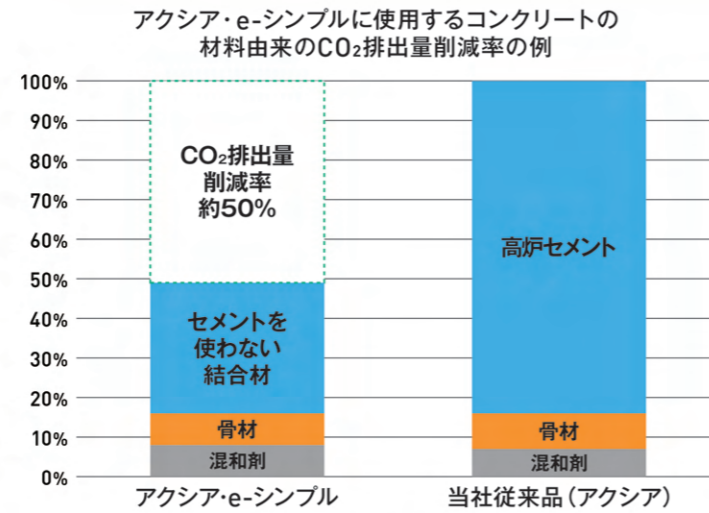



セメント・ゼロのデザインペーパー アクシア・e-シンプル



セメントを使用しないことで、従来のアクシア(高炉セメント使用)に比べ、CO₂排出量を約50%削減しました。アクシア・e-シンプルには、T-eConcrete®の技術を使用しています。T-eConcreteは、大成建設株式会社の登録商標です。

■セメント製品※A比CO₂排出量削減率商品トップ5 (2022年度実績)

デザインブロック	ランキング	商品名	セメント製品比削減率
	1	ウルトラC126	62.5%
	2	ウルトラC150	61.5%
	3	スマートC120	61.3%
	4	スクエアC150	61.3%
	5	スクエアC120	61.0%

※イージーC、素地ブロックは除く

擁壁	ランキング	商品名	セメント製品比削減率
	1	スクエアC・型枠	57.6%
	2	スマートC・型枠	56.7%
	3	RECOM フラット150	50.3%
	4	RECOM フラット180	49.2%
	5	RECOM フラット200	48.9%

インターロッキングブロック	ランキング	商品名	セメント製品比削減率
	1	パラレル・透水性60	48.5%
	2	シャビー80	48.3%
	3	オールラウンドペイブ・透水性80	47.7%
	4	誘導サポートペイブ透水性60	47.5%
	5	オールラウンドペイブ・透水性60	46.9%

※A：産業関連データベースの排出原単位より算出。

2024.04K



環境に対するエスピックの歩み



エスピックは2030年までにCO₂排出量を50%削減※することを目指します!! ※2018年度比



エスピック製品を使うことで、地球温暖化抑制に貢献!

Q. 各商品のCO₂排出量について教えてください。

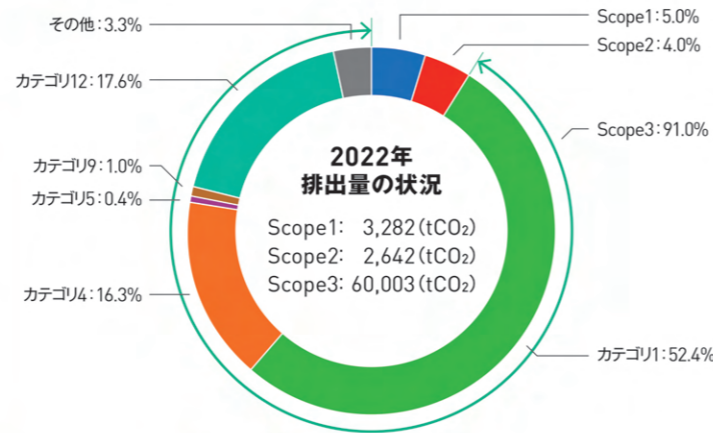
Q. なぜCN(カーボンニュートラル)やSDGsへの取り組みをはじめたのですか?

今や夏の気温は40℃、地球沸騰化の時代と言われています。しかし、このような環境を私たちの子どもたちや孫、その先の世代まで残す訳にはいきません。日本政府が掲げる2050年CNの実現を果たせれば、2050年の気温上昇を産業革命以前に比べて、+1.5℃に抑えることができます。

エスピックは自社で使用する燃料と電力から発生するCO₂を約10年かけて50%削減する目標を掲げて動き出しました。2030年の50%削減は社会的な責任を果たす1つ目のステップだと考え、全社一丸となってCO₂削減に取り組んでいきます。



副社長 柳澤



- Scope1: 直接排出(燃料)
 - Scope2: 間接排出(電力)
 - Scope3: Scope1, 2以外の間接排出
 - カテゴリ1: 購入した製品・サービス
 - カテゴリ4: 輸送、配送(上流)
 - カテゴリ5: 事業から出る廃棄物
 - カテゴリ9: 輸送、配送(下流)
 - カテゴリ12: 販売した製品の廃棄
 - その他(カテゴリ2,3,6,7,8,11)
- ※カテゴリ10,13,14,15は該当項目がないため除く



製造部 齋藤

エスピックでは、プレキャストコンクリート製品のPCR*に基づいて、自社で製造している個々の商品のCO₂排出量を算出しています。原材料の調達から工場への輸送、製品の生産過程から場内廃棄物の処理まで、コンクリートブロックの製造工程で発生するCO₂について、細かく算出しています。算出は毎年行い、ブロック1本当たりのCO₂排出量を前年より減らすことができるよう、CO₂削減に取り組んでいきます。結果については、次頁の「セメント製品比CO₂排出量削減率商品トップ5」をご覧ください。

※(一社)サステナブル経営推進機構の運営するSuMPO環境ラベルプログラムのプレキャストコンクリート製品を対象とした算定ルール。

Q. 営業活動の中でこれらの取り組みをどのようにPRしていきたいですか?

中小企業SBT認定の取得を通して、お客様やユーザー様にエスピックの商品はCO₂排出量が少なく、地球温暖化抑制に貢献していることをご紹介します。また、社員一人一人が意識して努力することはもちろんですが、お客様にもエスピックの取り組みを知ってもらうことで、社会全体で取り組んでいけるようになればと思います。



営業部 小川

Q. CO₂排出量削減目標に対する進捗を教えてください。

SDGs推進社内プロジェクトの1ワーキンググループとして、2030年までにCO₂50%削減(2018年度比)必達へ向け作業をしています。毎月、各部署の燃料と電力の使用量を調査しCO₂排出量をまとめています。

エスピックの2022年度のCO₂排出量は、2018年度比-20.4%で、目標の-16.8%を3.6ポイント上回っています。現在は養生室を改修するなど、CO₂排出量削減に繋がる取り組みを行っています。



開発部 多胡

2018年(基準年)から2030年までのScope1+2の削減目標および実績

